

令和6年度

第1回岩沼市総合教育会議

議事録

1. 招集日時 令和6年12月19日（木）午後3時00分
2. 招集場所 岩沼市役所6階 研修室A・B
3. 協議 子ども達の学力向上について
4. 出席者 佐藤淳一市長、及川浩市教育長、南館公雄教育長職務代理者
山田芳弘委員、江里美穂子委員、木村紀子委員
5. 出席補助職員
鈴木隆夫副市長、遠藤大輔総務部長、新妻敏幸政策部長
菅原亜由美健康福祉部長、古積知明市民経済部長
佐藤義幸建設部長(併)上下水道部長
大友康弘教育次長兼市民図書館長事務取扱、一丸孝博参事兼学校教育課長
渡辺里美生涯学習課長兼市民会館長兼中央公民館長
6. 欠席委員 なし
7. 傍聴者 4名
8. 本会議の書記
山下真理子学校教育課課長補佐兼教育総務係長
9. 開会 午後3時00分
10. 閉会 午後4時20分
11. 議事録署名人
木村紀子委員
12. 議事の経過
以下のとおり

大友教育次長兼市民図書館長事務取扱

只今より令和6年度第1回岩沼市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、佐藤市長より開会の挨拶をお願いします。

佐藤市長

本日は年末の大変お忙しい中、御参集いただき、誠にありがとうございます。日頃から皆様には岩沼市行政に対しまして、様々な御協力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

この総合教育会議は、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としております。市民から選ばれている私、市長と、教育長、教育委員によって、市民の思いをしっかりと市の教育行政に反映する、そして、それだけではなく、教育に携わってこられた方や現在子ども達の教育に携わっている方、有識者の皆様、地域の皆様、そういった方々の意見を汲み取りながらしっかりと市の教育行政を進めていく、そういう思いがこの総合教育会議という国の方針の中にあるのではないかと考えております。また、議会議員の思いをしっかりと教育に反映させていくことが日本の教育をしっかりと発展させていく、という考え方の元に成り立っているのではないかと考えております。

保護者の皆様が何を望んでいるのかを汲み取って、子どもの将来をしっかりと考えることを議会の中でも言わせてもらったことがございます。今ここに座っておられるのは、皆さんそれなりの教育を受けてきたからだとは思っております。公務員試験を受けるにも、中学校卒業だけでは受けることができません。そういうところも踏まえまして、しっかりと教育を見つめ、教育者の側だけではなく、学校の側だけでもなく、子ども達、市民目線もしっかりと大切にしていきたいと思っております。

今回の協議事項は「子ども達の学力向上について」でございますが、12月議会においては教育関係の御質問もいただいております。今年度から新たに、市の全国学力・学習状況調査の結果について公表を行うこととしましたが、その結果についての御質問や今後の取り組みなどについて、また以前から、あいる一むやほっとルームを設置して取り組んではいるものの、増加傾向である不登校対策等について議論をさせていただきました。御存知の通り、岩沼市のICT教育は、文房具としてのタブレット端末の活用が大変進んでおり、今月12日には北が青森県から南は沖縄県まで、多くの皆様に本市の公開学習会に御参加いただけるほどの取り組みとなっております。このような取り組みを維持継続しつつ、子ども達一人一人がその能力を最大限発揮できる教育になるよう、忌憚のない御意見をいただき、より岩沼市の教育行政が推進されますことをお願いしたいと思っております。

本日は皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

大友教育次長兼総務課長事務取扱

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表しまして、及川教育長より挨拶をお願いいたします。

及川教育長

皆さんこんにちは。佐藤市長にはお忙しいところ、総合教育会議という、我々教育委員会のメンバーと意見を交換する場を作っていただき、ありがとうございます。

市長の御挨拶の中にもありましたけれども、ちょうど1週間前に、200名に迫るほどの教育関係

者、教員、大学関係者、それから ICT 企業の方々、教科書会社の方々などにお集まりいただきまして、教育 DX の公開学習会を終えたところでございます。アンケート結果を今まとめているところですが、良い学びになった、良い機会だったという御意見が多数でございました。議員の皆様にも御参加いただきましてありがとうございます。また、議会の中でも教育に関する御質問を沢山いただきまして、教育関係者のみならず、市民の皆様にとっても教育ということは興味関心の高い分野なのだと改めて感じたところでございます。

本日は、教育委員の皆様の御意見、市長のお考えをいただき、今後の岩沼市の教育施策や各学校の教育活動の更なる発展に繋がれば良いなと思っているところです。限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

大友教育次長兼総務課長事務取扱

ありがとうございました。それでは会議に入らせていただきますが、総合教育会議の議長につきましては、運営要綱第 4 条の規定によりまして、市長が務めることとなっております。ここからは佐藤市長に会議を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

佐藤市長

規定により議長を務めさせていただきます。

はじめに、議事録署名員を指名させていただきます。今回は木村紀子委員に署名をお願いします。

それでは、協議に入らせていただきます。今回の協議事項は「子ども達の学力向上について」です。事務局から説明をお願いします。

一丸参事兼学校教育課長

(スライドにより説明)

佐藤市長

一丸先生、どうもありがとうございました。ただ今、教育委員会事務局の説明がございましたが、教育委員の皆様から御意見を伺ってまいりたいと思います。それでは、南館先生から伺わせていただいてよろしいでしょうか。

南館職務代理者

発表をありがとうございました。成績を上げていくことは、大きな課題として学校で取り組んでおられることと思います。非常に先生方も数字に敏感になっているんじゃないかなと思います。ただ、あまり数字だけに捕らわれることなく目標に向かっていけるよう、基礎固めを進めていくのが良いんじゃないかなと思っています。学校の授業の現場で、子ども達にはこの内容だけは伝えたい、覚えてほしいということがあると思います。集中力をアップして聞いてくれるような方法を、常に先生方は研究して実践しておられます。一気に数字が伸びることじゃなく、コツコツと積み重ねていくような姿勢が非常に効果的じゃないかなと思いますので、地道に学力向上を目指していただければと思います。そこには、親の助言や励ましがとても大事だと感じることから、親へのアプローチやアドバイス等にも力を入れていただきたいと思います。ありがとうございました。

佐藤市長

どうもありがとうございました。ただ今の件に関しまして、事務局の方からあればお願いします。

一丸参事兼学校教育課長

ありがとうございます。お話にありましたように、授業の中でポイントになるところがあつて、そこは徹底して覚えさせたいということがありますので、逃さないように取り組んでまいりたいと

思います。また、家庭学習の啓発についても同じです。学校だけで完結する問題ではないと考えておりますので、保護者の方と地域の方にいかに発信していくかということも課題として取り組んでまいりたいと思います。

佐藤市長

続いて、木村委員お願いします。

木村委員

先生方には日頃より感謝しています。お話ししたいことがいくつかございます。

一つ目ですが、私の方で今年の8月22日の第8回定例会で発言させていただきましたが、学力調査結果について、県内平均より岩沼は上ということで安心しましたが、受験を考えると学校で知らせていない比較も知りたいということを述べさせていただきました。実際公表されたものを見ると、名取市や仙台市の比較は載せていない形で公表されていたかと思います。

私たち夫婦は他の市町村から来ました。引っ越しや住宅購入の際には、いくつかの条件があって、子どもの将来的な仙台市への通学も含めて考えておりました。岩沼市が新たな市内居住者の増加を考えているのでしたら、しかも子育て世代の増加を考えているのでしたら、仙台市も含めた学力調査の結果を公表した方が良かったと私は思っております。

今回、公表をする際に仙台市を含めなかった理由を教えてください。

佐藤市長

では、事務局からお願いします。

一丸参事兼学校教育課長

県から示された資料には仙台市を除いた県の数値が示されておりましたので、県の方針に沿って公表したのになります。ただ、参考資料として仙台市を除いたデータと含めたデータが載っておりましたので、教育委員会の参考にはするのですが、公表するものとしては考えておりませんでした。

木村委員

先ほどの説明資料にはあったので、私は知れて嬉しく思っただけですけども、やはり多くの保護者の方や居住を考えている人達には参考になると思いますし、もしできるのであれば公表していただきたいと思います。

及川教育長

全ての市町村が結果を公表している訳ではありません。岩沼市は岩沼市の責任の下で子ども達の状況を公表し、仙台市は仙台市の子どもの様子を公表していますが、近隣の名取市などは公表していないので、公表していない数字を私たちが載せる訳にもいかないという状況がございます。

佐藤市長

市民から選ばれた市長という立場から発言させていただくと、仙台市の公表内容も見させていただきましたけれども、今岩沼に住んでいる方々にこの結果を見せてしまうと、明らかに差があるので仙台市に住むことを選ぶでしょう。私の立場からすると、選ばれるよりも選ばれない結果になるので公表してしまうことになるので、外部に公表するのは厳しい内容かなと思っています。比較検討して岩沼が選ばれない結果をわざわざ出す必要は、私が市長して、市民から選ばれている立場としては、今は無いかなと思っています。ただし、教育委員であるとか議会であるとか、そこにはしっかりと発表しますし、今後の改善策を教育委員会にとっていただくための資料にはなるかなと思

っています。私の立場としてはそういう立場です。

木村委員

保護者として、選んだ者としては、事実を分かって選択するのと、分からないでいて後で驚くのでは、裏切られた思いや、住宅購入後にもう変更できないのにといったことを、もしかしたら思うかもしれません。

それから、岩沼の良いところと仙台の良いところは違うんですね。岩沼は空いている時間があるので、自由に自分の時間を学習に当てられるし、食事を気にする親からすると給食が充実しているということが良いと思います。地価も広さも違うので、生活環境として庭がある家を選択できます。勉強だけを求めている御家庭ばかりでなく、いろんな意味で岩沼を選んでいるのだと思います。その時に岩沼の学力について事実が分かっていたら、塾や通信教育などを取り入れることもするでしょう。事実を分からないで岩沼を選択するのと分かって選択するのは違うと思います。

佐藤市長

この場で述べることは、誰かが岩沼へ引っ越してくるために資料を出すことではなく、学校教育の話なので違うと思うんですよ。総合教育会議で話す内容としては、教育をどうしていこうという事であると思います。だからこそ、公表した点数が仙台市よりも低いので我々はこうしていこうとか、ただ単に点数を上げるだけではなく生きる力も大事だということを議論していただくのがこの会議の場だと思っています。ただし、私が議会で話すのはそうではありません。しっかりと点数を上げていただかないと移住してくる人が来ないだろう、選択条件はそれだけではないけれども、市民の皆さんや移住してくる保護者はそこを重視していると思っているので、重要と考えています。もちろん委員がおっしゃったように生活環境も重要なので、しっかりと宅地も良いものを造成しなければいけないであるとか、安全面を考えて防犯カメラを設置しなくてはとか、そういうこともありますけれども、それはここで話すことではないと私は思っています。今回、御意見として伺いますけれども、教育委員として総合教育会議の中で話す内容として、後方で聞いている職員が参考にさせていただくので、もちろんしっかり対応はさせていただきますけど、今ここで間口を広げて議論する問題ではないかなと思います。

木村委員

分かりました。もう一つ、この学力・学習状況調査の結果を先生方は知っているのかということが気になります。学校の先生方を見ていると、個々の自己満足で完結し、順位とか競い合うとか刺激し合うっていう環境が減っているように思います。先生からの声掛けも「そこまで頑張らなくてもいいんだよ。」という言葉が聞くことが多々あるんですね。その頑張りが学力向上につながっていると思っていたので、まず他と比較するとか切磋琢磨するとか、学力向上にしても現在地を知って、教えてくださる先生方それぞれの熱意が子どもに伝わるものだと思います。

佐藤市長

こちらの点は事務局からお願いします。

一丸参事兼学校教育課長

学校では今回の調査結果について教員が共有し、傾向や対策についても共有しております。各校から保護者にもお示ししておりますし、教育委員会にも報告が上がってきております。この調査の目的は、授業改善等に役立てるということもありますので、そういう意味で学校内では十分活用できていると思われます。

木村委員

令和7年度実施予定として、中学校ではAIドリルを導入するというお話がありました。説明にもあったとおり、難しすぎる・ちょうど良い・簡単すぎるという層があると思うんですけども、皆に同じ課題を出されてしまうと困るなと思いました。学校のレベルはこれぐらいだという前提で、学校を下校してから就寝までの時間、うちの場合は塾に入れてるんですね。そうすると、塾の課題などがありまして、来年度から学校で家庭学習を出されてしまう、できる子とできない子に同じ課題と同じ量を出してほしくないなと思っております。そういう家庭もありますし、学校でも塾の方で聞いてねっていう声掛けがあるように、塾に行く前提でお話があるようなので、急にこの量を毎日やってね、やらないと内申点に響きますよっていう声掛けはちょっとやめていただきたいと思います。提供の仕方や声掛けの仕方は工夫していただきたいなと思っております。

一丸参事兼学校教育課長

子どもが塾に通うことを前提として声掛けをしたり、内申点に響くから課題をしなさい、というような声掛けは、学校では行われていないものと認識しております。AIドリルについては検討段階にありますが、必ずやりなさいというような提供の仕方ではなく、放課後や家庭での学習ツールの一つとして子どもに選択を委ねることを考えています。帰宅後、進学に向けて頑張りたい子であればAIドリルや塾などから選んで取り組むのだと思いますし、放課後に運動したい子であれば空き時間にAIドリルを使うなど、柔軟に活用するように考えております。AIドリルの課題を出さないことで成績を左右するような使い方は考えておりません。

AIドリルというのは、学習者のレベルに適した問題を提供してくれる教材です。苦手で困っているときには少し戻った問題に取り組めるなど、AIが自動的に問題を提供してくれます。その子の学力レベルに適した問題をどんどん提供してくれることが魅力です。

佐藤市長

続いて、山田委員をお願いします。

山田委員

子どもが喜ぶ、親も喜ぶ、担任も喜ぶ、地域も喜ぶ、岩沼は非常に良いことをやっていると思います。子どもの頃に将来の選択肢が広がるということは素晴らしいことなので、ぜひ良い方向に向かっていただきたいと思います。

先ほど課長さんのお話にあったとおり、教育委員会と学校と家庭が同じ目標で連携するということが大事だと思うんですね。学校の教育目標を保護者にどのように理解してもらえるか。PTA総会で校長先生が学校経営や学校の教育目標についてお話をなさいますが、その中でも学力向上が大事なんだということを示すような資料を示して、保護者に理解してもらわないといけません。課長さんには、全校で学習指導要領の目的を前提にした学校の教育目標を作ってくださいということをお願いしておりました。今度はそれを保護者の方に、うちの学校はこういう教育をやりますということをお話しするのですが、なかなか伝わらないものだと思います。

資料をお持ちしたのですが配付してよろしいでしょうか。以前、200名を対象に渡した資料です。

佐藤市長

配付をお願いします。

山田委員

小学校の目標例をお配りしました。まず教育目標があり、将来どういう子どもに育てたいかとい

う児童像があります。

左側に学力向上のプランが書いてあります。基礎学力の向上が一番目の目標で、具体策としてNRTテスト実施、これは標準学力検査で先程の提案にもありましたが非常に大事な検査です。

それから読書活動は学力テストと非常に相関が高いです。これも進めなければなりません。

次に、少人数指導があります。指導法はいろいろあって、岩沼ではICTを使えば良いと思われ
ます。私も12日の公開学習を見ましたが、ICTは始終使う訳ではなく、展開の部分に用いると良
いと思います。同じように少人数指導もずっとやっている訳ではありません。例えば、最初は一斉に
授業をし、途中で30人を20人と10人に分けます。10人の方を知識理解、20人の方を活用とい
うことで難しい課題に取り組みます。単元によっては一斉授業をします。

次の「家庭学習の習慣化を図る」というのは非常に大事です。平日の帰宅後、土曜日、日曜日、
長期休業中に何もしない子もいるんですね。そうするとレベルが下がってきます。資料にサマース
クールと書いてますが、昔やっていたものです。岩沼では、今度、学び塾を拡大するという話があ
りました。私は以前、学力が低い子については、担任から親にお話をして学校に来てもらいました。
やはり学力を上げるためには、個別相談をしなければいけないときがあります。「設定しました。
どうぞ来てください。」というだけでは学力は上がらないと思います。家庭学習時間についても目
安の時間を作って、家庭で何時間ぐらい勉強したか書いてもらいました。クラスでそれに達してい
る子には担任が賞状をあげるなど、いろいろなやり方があると思います。

それから数値目標です。保護者評価や学校評価など40項目ほどやっていますが、やったものの
結果をただ渡してもなかなか伝わらないということで、一つにしました。「授業がわかる」「学校が
楽しい」「元気なあいさつができる」という目標の元、ある学校と共に取り組んだ結果、1年目が
全国平均を2ポイント上回る、2年目は1ポイント上回りました。私は経営プランに携わり、担任
の方からはノートを使い方など具体的なことをお話しました。結果を出すと子どもはすごく喜びま
す。ぜひお願いしたいと思います。

学校から家庭にお話していただく際には、こういうプランなども示すと良いと思います。「家庭
教育の手引」がありますが、渡しただけではなかなかやらないものです。宿題のこまめなチェック
やコメントを付ける等いろいろなやり方があると思います。先程の話で、皆が同じ宿題ではなく、
AIによってその子に合わせた課題がやれるというのは進んでいるなと思いました。

佐藤市長

ありがとうございました。山田委員からのお話について、事務局の方で何かあればお答えいた
だければと思います。

一丸参事兼学校教育課長

ありがとうございました。家庭に対する啓発は非常に大事だと考えております。本市教育委員会
では、10年くらい前に家庭学習の手引きを作成していた経緯がございました。時代は変わっても
家庭で学習の良い習慣をつけることが大事と思っておりますので発信していきたいと思いま
す。ただ、一方で子どもに選択させる考えさせる力もつけていきたいと考えますと、一律に宿題を課すこ
とが必ずしも良いことばかりではないと考えますので、そこは子どもや保護者の状況、学校の状況
に応じながら、子ども一人一人に負担の無いような、そして力を伸ばしていけるようなものになる
よう検討してまいりたいと思います。

佐藤市長

続きまして、江里委員をお願いします。

江里委員

課長さんのお話は、とても分かりやすく参考になりました。「誰一人として取り残さない学び」に自ら学ぶ力が大事、自己調整することが大切だとありました。資料にあった学級内における理解度分布は、確かに昔からその通りだなと思っていたのですが、理解度分布にこれだけ差があるということは、自ら学ぶ力や自己調整力の分布もおそらく同じような山の形になるのではないかなと思います。AI ドリルや様々な取り組みが子ども達に当てはまると、とても良い結果になると思いますが、理解度がこれだけバラバラの子達に一律の結果にはならないと思いますし、こういうことをするよと言うだけでは結果に結びつきづらいのかなと思います。中学校でAI ドリルを今後取り入れるかもしれないということですが、おそらく力のある子はどんどん向上心を持って学んでいけると思うんですけども、普通の授業が難しすぎるという子に対して確かにAI ドリルがその子に合わせた課題を出してくれると思うんですけども、元々自ら学ぼうという力が身に付いていない子にAI ドリルをやりなさいと声をかけたとしてもなかなか家庭では取り組みづらいのかなと思います。中間層の中には自ら取り組んで上を目指そうという子もいれば、このままでいいやと思っている子もいるでしょう。子ども達に任せるのも大事ではあるんですけど、それぞれの子どものたちの理解度に合わせて、ある程度、学校の先生が具体的なアドバイスを定期的にしてあげないと取り組みづらいのではないかと思います。できる子はどんどん進めて、たまにそれを褒めてあげれば更にやる気になると思うんですけど、難しすぎるという子や中間層には、何月中にはここまで進んでいるといいねとか、具体的なアドバイスをしてほしいと思います。せっかくの良い取組なので、具体的にそれぞれの子ども達にどう当てはめていくかというところまで検討していただければと思います。できる子の指導が上手な先生、底上げが上手な先生など、先生たちの良いスキルを情報共有できるような校内研究や先生方の勉強会をしていただけると良いのかなと思いました。

質問ですが、中学校にAI ドリルを導入するかもしれないという話は、私は噂で聞いていたのですが、現在の中学校では小学校と同じくタブレットドリルを使っていて、保護者は年間900円ほど負担していますが、自分達がいくら使用料を払っているのか分かっていない方が案外います。小学校ではタブレットドリルを宿題として利用する先生が多かったので使う機会があったのですが、中学校では宿題は自主的にということでタブレットドリルをやりなさいと敢えて声掛けする先生はそんなにいらっしゃらないので、下手したら3年間タブレットドリルを使用しないままにいる子もいて、年間使用料を払っているのにもったいないと思っていました。今後AI ドリルを導入するのであれば、保護者負担も増えるということで、その辺のアナウンスをしっかりといただきたいですし、そのメリット等を伝えて家庭学習に活かしていけるように保護者向けのアナウンスをされる予定があるのか伺いたいです。

佐藤市長

ありがとうございます。それでは事務局の方からお願いします。

一丸参事兼学校教育課長

御意見ありがとうございます。教材を与えるだけで終わりということではなく、まず事前の準備として、こういうAI ドリルであること、予算、メリット・デメリットを示し、メリットを活かすために周りの先生や保護者がどのように支援していくか、これから考えなければいけません。先生達が子ども達に預けて、後はやっていけば良いという感覚にならないように、十分に指導してい

きたいと考えておりますし、子ども達がやろうとした時に自己調整力や自ら学ぶ力がまだ不十分な子に対してどう支援するかについても考えていきます。生徒指導力に関わってくるとは思います、そういうことも含めて、子ども一人一人に対して、どう声掛けしてどう支援できるのか、校内で共有できるような対策について助言していきたいと思います。

佐藤市長

各教育委員の皆様から貴重な御意見をいただいてまいりました。今後の教育行政にしっかりと活かしていくことになると思います。

私も議会で、皆さんから沢山の質問を受けましたけれども、今、教員の皆さんは大変厳しい中で勤務されていると思っておりますし、そこに敬意を持っております。公教育が難しい状況になってきており、公務員であるからこそ親の皆さんは必要以上に強く言うこともあると思うし、私立でないからこそ強く言って、それに対して先生は強く言えないということがあり、どのように教育して良いのか分からないような状況になっているのかなと感じます。昔であれば、学校で宿題を出されればそれを最初に片付けるというのが当たり前のことだったんですけど、木村委員さんのお話にあったように、塾があるんだから学校はそこに干渉してくるような宿題の出し方をするのでは困るか、そういう意図かどうか分からないですけどそういう風に聞こえるような御発言もありましたし、もちろんそれはそういうことも今の時代あるんだろうなと思います。

皆さんがおっしゃられていましたけれども、様々な手厚い支援をしている中でも、やはりばらつきがあるので、なかなかその支援が行き届かないお子さんもいます。今の時代、下位や中位のお子さん達には手厚い支援をしていると思いますが、上位のお子さん達にはほぼ何もないというか、一定の中でしか手当されていないのかなというところがあって、その辺は私も公教育であるけれど不平等なのかなと感じるんですけども、なかなかそこまでできない部分もあるのかなと思います。

私は、一番はやはり家庭が重要と思っていまして、家庭でしっかりと躾をしていただかなければいけないと思っています。これはそれぞれ皆さんの意見が違うところだと思うんですけど、やはり学校は学業を教えるのが中心であって、授業の中に躾という授業はありません。各教科の授業が大事で、それをしっかりと教えるのが学校、それで良いと思っているんですけど、実際には保護者の皆さんは躾までしていただきたいと思っている節があります。それはちょっと違うとどこかの段階で言っていかなければいけないんじゃないかと思います。そう言いながら、学校には保護者の皆さんは入っていく領域をどんどん広げたり、勝手に狭めたり、子どもを預けるって言うんですけど、預けているにも関わらず、今度は預けていることに対して意見を言い始めるんですよ。「こうやってください。」「なんで学校は勉強以外のことやらないですか。」実際は違うと言えれば良いのですが言えない立場だというのはよく分かるので、それは大変息苦しいだろうと思っています。どこかの段階で岩沼市はしっかりとそういうところを分けて、入学した段階に学校はこういうところだと教えていかなければいけない時代が来ているのかなと思っています。何でもやるのが学校じゃないですから、この部分は家庭でやってください、そこにこちらは責任を持ちません、というぐらい言わないともう回らないですし、先生も集まらないし、とても教育行政をやっていけないんじゃないかなと素人の私から見ても思っていますので、その辺をいずれかの段階でしっかりとやっていかなければいけないかなと思っています。

山田委員

どうせやるんだったら本気でやって結果を出してほしいので5つの提案をさせていただきます。

まず、他市町の学力向上プランをぜひ知ってほしいと思います。今まで仙台市や東京都を上回る成績を出している市町もあるので、どうすれば出せるのか、ぜひ先生方や関係職員が話を聞く機会を実現してほしいと思います。

2つ目に教科書会社から教科書の使い方の説明を聞くことです。先日の12月12日のリーディングDXスクール公開学習会に私も参加させていただいて、すごく素晴らしいものでした。ただ、教科書の使い方が気になりました。教科書は文節改行で作られていますが黒板の書かれ方は違っていました。こういった事をぜひ早めに教えてもらって、きちんと教科書を活用できるようにしてほしいです。学校毎にでも、教頭から出版社に連絡をとってもらえれば実現すると思います。

国立教育研究所から実際に学力・学習状況調査の問題を作成している方を呼んで、どういう調査結果だったのか、どういう活用をした方がいいのかとお聞きする機会を持ってほしいと思います。経費はそれほどかからないと思います。担当職員だけでなく、家庭学習が関わってくるので、ぜひ保護者の方も入れてお聞きできればと思います。

それから、標準学力検査ですが、岩小と西小が保護者負担で12月にやっていたと思います。市の方でお金を出していただいて、4月と12月に実施して伸び具合を見ることで、成果が分かりますので結果分析をしていただいて、上の学年に進むと良いと思います。

最後に、特に中学3年生については、中総体が終わったら勉強するためにできるだけ学校を解放してほしいです。教室で自習しているところを補助教員のような方に見ていただく。業務内容を変えたり、補助教員の増員をするとお金はかかりますが、とにかく様々な施策をしていかないと本当に難しいことです。

お金がかかるものもありますが、せつかくこの会議をもったのですから結果を出しましょう。

佐藤市長

ありがとうございます。様々な御提案をいただきましたが、財源の面にも関わってくるのでお話をさせていただくと、もちろん手当てはしていかなければならない、しかし厳しい財源ですので、どこかを削ってどこかに手当するという状況です。成長過程にある岩沼市ではないので、これが右肩上がりで成長していれば取り入れるとなるんですけども、どこか削っていただかなければいけません。

私の感覚としては、他自治体でやったものをそのまま岩沼に持ってくればそれが合うという訳ではないですし、もちろん教員の数であるとか質であるとか、地域的な特性であるとか様々あるので、それを皆さんで研究していただいて、岩沼ではどういうふうにすればよりフィットしてくるのかというのを考えた上、導入していく研究をこれから進めていただかなければいけないというふうに思います。御提案は素晴らしかったと思うので、皆さん教育委員会の方でしっかりと考えていただけるのかなと思いますけれども、何かをやるには今いる教職員でやらなければならないので、お金だけでなくマンパワーも必要になり、そこでもお金の話になります。なかなか厳しいところはあると思いますので、工夫してやっていただくことも、ここで議論していただくことの一つかなと思います。そういった専門的な知見があると思いますので、どう工夫すればできるのか、負担を減らしつつやれるのかということも御助言いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

及川教育長から今日の総括をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

及川教育長

皆様から様々な御意見をいただきました。ありがとうございます。

私自身は今日このプレゼンを見て、自分事ながら、随分いろんな事をやっているなと思いました。それぞれの学校の教員がしっかりと展開しているというところ、教員の努力もそうですし、家庭の皆さんからの協力も沢山いただいていることに改めて感謝したところでございます。

全てを学校がお膳立てしなくてはならないのかというところと決してそうではないだろう、家庭に委ねなくちゃならないところ、あるいはそれぞれの家庭での教育に対する思いや教育観があると思いますので、やはりそこも大事にしていかなきゃならないと思います。そこに学校が力を貸してもらう部分は沢山あるだろうと思います。1 から 10 まで学校だったり教育委員会だったり、市の予算を割いてそこに手当をしていければそれに越したことはないんでしょうけれども、必ずしもそうはならない、そうであれば今伸ばしていきたいと思うところにお金をかけていくか、あるいは不足していると思うところにお金をかけていくか、そこをこういう場で御意見を伺いながら、最大公約数にするのがやはり公教育なのだと思います。ですから、学校で学習の全てが完結するというわけではありませんで、家庭の皆さんの協力であったり、地域の皆様の協力があったりというところをいただきながら、学校と家庭、地域が力を合わせて進んでいくことが公教育に必要なことだと思います。

皆さんからいただいた御意見を基に、学校でできることはこういうこと、家庭にお願いするべきところはこういうこと、地域にお願いすべきことはこんなこと、ということで、それぞれのお力をお借りしながら岩沼の子ども達のために教育政策を展開し、教育活動を進めていくことができればと思っております。これからも様々な角度から御意見を頂戴しまして、子ども達の将来、それぞれの子ども達の夢への実現に向けて教育施策を展開してまいりたいと思いますので、今後とも御指導、御鞭撻、御協力いただきますようお願いしまして総括いたします。ありがとうございました。

大友教育次長兼市民図書館長事務取扱

以上をもちまして、令和 6 年度第 1 回総合教育会議を閉会させていただきます。

(午後 4 時 20 分閉会)

この議事録の作成者は、次のとおりである。

学校教育課課長補佐兼教育総務係長 山下 真理子

上記記録の正確なることを認め、ここに署名する。

令和 7 年 2 月 10 日

議事録署名人

木村 紀子

